



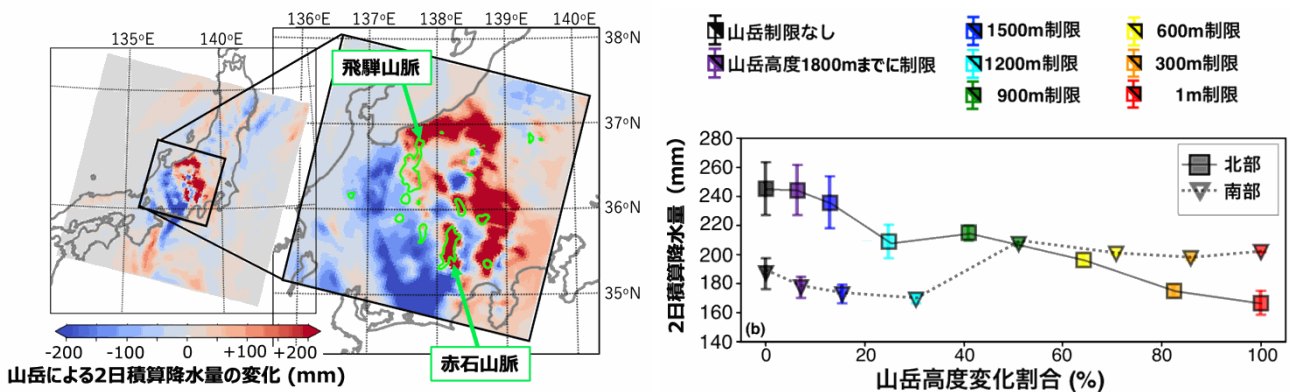
令和元年東日本台風において、中部山岳の影響により長野県北部地域で激しい豪雨になったことが分かりました

長野県環境保全研究所の研究グループでは、温暖化研究の一環として中部山岳の標高を変化させた気象シミュレーションを行い、令和元年東日本台風での長野県北部地域・南部地域それぞれの降水量に対する山岳の影響を解析しました。本成果は7月15日付で国際科学誌「Scientific Online Letters on the Atmosphere」に掲載されます。

掲載論文はこちらから：<https://doi.org/10.2151/sola.17A-008>

【研究の概要】

- 気象シミュレーション内で中部山岳の標高を変化させることにより、令和元年東日本台風で山岳が長野県内の豪雨に与えた影響を検討しました。
- 飛騨山脈や赤石山脈などの中部山岳の存在によって、長野県の北部地域の降水量は約3割強増加していたという結果が得られました。一方、台風軌道及び雨雲の流入方向に近い南部地域では、赤石山脈の風上側と風下側で山岳による影響が打ち消し合うため、総降水量に明瞭な変化はないという結果になりました。
- 長野県に襲来する台風の豪雨は、台風自体の単純な勢力の強さだけでなく、山岳地形や台風軌道、風向きが影響することが示唆されました。



左：令和元年東日本台風によって長野県内で豪雨が生じた2019年10月11-12日の2日間の積算降水量に対する中部山岳の影響。赤いほど山岳によって雨が強くなり、青いほど弱くなった領域。緑線は1800m標高。

右：県北部領域と南部領域での、山岳の最大標高を300mごとに変化させたときの2日積算降水量の変化。

本研究は独立行政法人環境再生保全機構の環境研究総合推進費（JPMEERF20192007）の支援を受けて実施したものです。



世界を変えるための17の目標



【長野県は「SDGs 未来都市」です】

SDGs（持続可能な開発目標）は、美しく、誰もが安心して暮らし続けられる社会をめざし、世界みんなで取り組む目標です

環境保全研究所 自然環境部（飯綱庁舎）
（次長）渡辺昭生（担当）山田恭平
TEL 026-239-1031（代表）
FAX 026-239-2929
E-mail kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp

環境部 環境政策課 総務係
（課長）真関 隆（担当）戸谷亮太
TEL 026-235-7171（直通）内線 2714
FAX 026-235-7491
E-mail kankyo@pref.nagano.lg.jp